

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：32698

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01191

研究課題名(和文) 東方・ギリシア教父と女性—その歴史の実態と東西キリスト教世界における解釈史—

研究課題名(英文) The Greek Fathers and Women: Its Historical Actualities and Interpretations between the East and West Christian World

研究代表者

宮本 久雄 (Miyamoto, Hisao)

東京純心大学・看護学部・教授

研究者番号：50157682

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、「東方・ギリシア教父時代における女性の主体的な信仰生活とそれを支える教父たちの司牧活動の実態の解明」、「旧約聖書『雅歌』の註解をめぐる東方・ギリシア教父の伝統とその西方キリスト教世界の女性たちの霊性や、女性性をめぐる言説への影響史の解明」という大きな二つの研究目的に定めて研究を進めた。メンバーそれぞれがテキストに沈潜し、定期的なオンライン公開研究会やミニシンポジウム、メールでのやり取りを通じて意見を交換しながら、議論を深めることができた。それらの成果として二つの論集が刊行された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は、東方キリスト教世界にも十分な問題関心を向け、しかも、東方キリスト教世界から西方キリスト教世界に流れ込んだ諸影響も検討する、歴史学・考古学・美術史的観点も含めた総合的な共同研究体制の構築を試みた。本研究課題は、女性たちの主体的な信仰生活の実践や女性をめぐるイメージ・言説についての諸問題を共同研究によって検討することで、これまで以上に包括的に解明され、問題理解が深められた「キリスト教的女性観」を、聖書学・歴史学・神学・教父学・宗教学・美術史・考古学の諸研究領域およびジェンダー論・女性論に対して示すことができた。それらの諸成果は公開研究会、ミニ・シンポジウム、論集等で広く発信された。

研究成果の概要(英文)：This research project was conducted with two main themes: 1) The actualities of women's initiatives in religious life and the pastoral support for them by the Greek Fathers, and 2) The traditions of the commentaries on the Song of Songs written by the Greek Fathers, and their receptions in the discourses and narratives that relate the spirituality and femininity of women in Western Christendom through the centuries. Each member engaged in text reading, and also exchanged opinions through periodic online public workshops, mini-symposiums, and e-mail exchanges, thereby deepening discussions. Two books have been published as a product of the above research activities.

研究分野：聖書学、哲学、教父学、物語論

キーワード：女性 雅歌 教父 美術史 東方・西方キリスト教 典礼 修道制 考古学

1. 研究開始当初の背景

古代地中海世界に広まったキリスト教が父権的・伝統的社会のなかで女性たちに新たな挑戦的な生き方をもたらしたことを明らかにする優れた研究成果が近年多くもたらされた。とりわけ、ローマ帝国東方地域、ギリシア語圏で活動した女性たちをめぐる研究が近年欧米で大きく進展している。このことは、古代から中世のキリスト教世界における女性像に対する問題関心をいっそう高め、また、そうした問題の解明の必要性をいっそう知らしめることになった。

しかし、それらの研究では、キリスト教世界が、東方・ギリシア世界と西方・ローマ・ラテン世界に二分されており、しかも、研究の蓄積は後者の領域に偏る傾向があった。だが、実際には、古代から中世のキリスト教世界における思想・霊性および女性像は、東西で断絶していたのではない。それどころか、むしろ、西方・ローマ・ラテンには東方・ギリシア教父を源泉とする諸影響が流れ込んでいたのであって、女性像もその例外ではなかった。

こうしたことから、本研究課題では、キリスト教が女性たちを同時代のギリシア・ローマ的社会制度や伝統的価値観から解放し、新たな生き方を可能としたとはいかなることか、という問題に取り組むためには、これまでの研究では十分に確保されてこなかった東方・西方キリスト教世界の双方を包括する研究体制の確立が急務であるという問題理解を共有した。そして、このような問題理解にもとづいて、本研究課題は、以下の二つの大きな問いをめぐる共同研究を構想し、教父学・神学的観点に加え、歴史学・考古学・美術史的観点を含めた総合的な研究体制を組み立てた。

(問一)「東方・ギリシア教父時代のキリスト教世界、とりわけその中心地であった、ローマ・ビザンツ帝国内において、どのように女性たちが主体的な信仰生活を営み、教父たちの司牧がそれをいかに支えたのか。」

(問二)「東方・ギリシア教父たちが女性像・女性論を神学的にどのように形成し、それが古代から中世のキリスト教世界において、とりわけその影響の強い12世紀以降の西方キリスト教世界の女性たちの霊性や女性性をめぐる言説において、いかに受容されまた展開したのか。」

2. 研究の目的

以上の問いを中心として、各研究者の専門領域とその相互交流による長所を活かしたしかたで古代から中世のキリスト教世界における女性像の解明を飛躍的に進展させるべく、以下のよう、研究の目的が共有された。

(目的一)東方・ギリシア教父の時代における女性たちの主体的な生き方とそれを支える教父たちとの協働体の実態を、聖書学、神学、歴史、考古学的観点によって多面的に解明する。

(目的二)東方・ギリシア教父の女性理解を豊かに発展させる契機となった、花嫁と花婿の相聞歌の形式を取る旧約聖書中の異色の書「雅歌」に対する解釈・註解(Hermeneia/Homilia)に注目し、教父たちの解釈した雅歌の花嫁像の中に多彩な視点で織り込まれた様々な女性像の解明と、その影響が及んだ西方キリスト教世界の女性たちの霊性や女性性をめぐる言説における雅歌註解の伝統の受容と展開の解明を行う。

3. 研究の方法

そのために各研究者が目的ごとに連携しながら、それぞれの研究領域を中心に、次のような仕方で研究テーマを追求することとした。

・当時の女性たちの霊的生活の指針となった女性聖人(聖母マリアを含む)・女性巡礼者の伝記や、教父たちが女性たちのために行った説教などの、原典資料の分析を行う。

・ローマ・ビザンツ帝国内における女子修道院の発展と女性たちの社会活動についての歴史学的・考古学的・美術史的研究を行う。

・これらの研究成果を共同的に検討することで教父研究に新たな研究可能性をもたらすような、女性たちの生き方に関する多面的な解明を行う。

・東方・ギリシア教父たちの「雅歌」に対する解釈・註解(Hermeneia/Homilia)がいかなる意味で女性たちの主体的な生き方をうちから支える女性像および言説の豊かな源泉となっているのか、原典資料の分析を行う。

・そうした東方・ギリシア教父たちの「雅歌」に対する解釈・註解(Hermeneia/Homilia)

がもたらした女性像および言説が、西方キリスト教世界の女性たちの霊性や 女性 性をめぐる言説にどのように受け取られたのか共同的に検討する。

・そうした受容史ないし影響史的検討を踏まえつつ、西方キリスト教世界に特徴的なものとされる女性霊性の形成と展開の独自性について、中世から近世におけるそれぞれの時代における固有の状況に立脚して原典資料の分析を行う。

・それらの研究成果を共同的に検討し、これまで東方・西方に分断されがちであったキリスト教思想研究に、歴史学・考古学・美術史的観点も含めた、総合的・双方向的な研究領域を創生することを目指す。

4 . 研究成果

歴史・考古学・美術史・聖書学・思想史・宗教学などにまたがる一連の共同研究を通じて、本研究課題では、現代のジェンダー論や女性論を踏まえながら、古代・中世キリスト教世界の女性たちの信仰・実践、ないし、さまざまな資料に現れる女性観に関わる言説や女性像に注目して「女性」たちの新たな相貌を見出すことができることを明らかにし、その成果を公開研究会、ミニ・シンポジウム、論集などで広く共有できるかたちで示すことができた。それらによって、専門領域や関心に応じて様々な視角や方法で「女性」に関する問題を論ずることで、女性、男性、両性の協働態のあり方をめぐる、これまで気づかれてこなかった叡知や可能性を見出すことができた。このことは、これからのさらなる共同研究の発展の重要性と必要性を示すものであり、本研究の優れた研究成果であると言える。そのほか、個別の研究成果については、各年度ごとの報告として示された通りであるが、それらの諸研究は、ギリシア教父や後のビザンツ文化を通じて豊かに花開いた東方キリスト教の世界観における女性観や、その西方キリスト教世界への影響に関して、これまで十分にかえりみられてこなかった問題領域と問題意識を深めるものとなったと言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 鶴岡賀雄	4. 巻 1
2. 論文標題 「原罪から栄光まで - 十字架のヨハネの原罪論の射程 - 」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『「原罪論」で紡ぐキリスト教思想』	6. 最初と最後の頁 271-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴岡賀雄	4. 巻 1
2. 論文標題 「スピリチュアリティを新たに活かす」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『世俗の彼方のスピリチュアリティ - フランスのムスリム哲学者との対話』	6. 最初と最後の頁 137-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立広明	4. 巻 27
2. 論文標題 「ウンミディア・クアドラティッラの仲間たち ローマ世界における女性の公的主体（public agency）とその変容」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『奈良大学大学院研究年報』	6. 最初と最後の頁 21-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroaki ADACHI	4. 巻 124
2. 論文標題 " I Baptize Myself in the Name of Jesus Christ: The Female Apostle Thecla and her Self-Decision before God. "	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 STUDIA PATRISTICA	6. 最初と最後の頁 203-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu Yamada	4. 巻 128
2. 論文標題 Pelagians', Chrysostom's and Augustine's Different Views on Pain of Childbirth as Revealed through their Counsel to Women	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studia Patristica	6. 最初と最後の頁 300-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上 寛	4. 巻 94
2. 論文標題 『二原理の書』における悪と意志の関係について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 27～48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20716/rsjars.94.1_27	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海老原晴香	4. 巻 22
2. 論文標題 カッパドキア教父の婚姻観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 白百合女子大学キリスト教文化研究論集	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部善彦	4. 巻 67
2. 論文標題 研究ノート「エックハルトの『教導講話』における身体性について」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教学	6. 最初と最後の頁 87-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu YAMADA	4. 巻 16
2. 論文標題 Pelagius' View of Ideal Christian Women in his Letters - Critical Perspectives of Recent Pelagian Studies Comparing Chrysostom's View in his Letter to Olympias	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scrinium	6. 最初と最後の頁 67-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本久雄	4. 巻 15
2. 論文標題 アニメへの旅 本願の会と晴恨 (ハン) : 「もう一つのこの世」に向かって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『石牟礼道子を読む』 (EAA Forum 9) 東京大学 東アジア藝文書院・EAAブックレット	6. 最初と最後の頁 83-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計18件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Rei Hakamada
2. 発表標題 Lay Hesychasts? Isidore and Palamas among Lay People
3. 学会等名 Hesychasm in Context: Theology and Society in the Fourteenth Century, (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rei Hakamada
2. 発表標題 'Mary the Mother of God in Gregory Palamas' Homilies: Her Role in the Deification/ Salvation of Human Beings''
3. 学会等名 The Virgin Beyond Borders (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 ヘシュカスムと一般民衆 パラマスとイシドロスの民衆教化活動について
3. 学会等名 古代・東方キリスト教研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田 順
2. 発表標題 古代末期・都市ローマにおけるキリスト教救貧活動と女性 ラテラーノ地区の考古学的新知見を中心に
3. 学会等名 「東方・ギリシア教父の女性理解 - その受容と展開」公開研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田 望
2. 発表標題 「陣痛は罰」？「性は死の源」？ - ペラギウス派、クリュストモス、アウグスティヌスによる陣痛解釈の相違（四半世紀のペラギウス派研究における発表者の挫折体験と成果から：秘蔵写真の紹介も併せて）
3. 学会等名 「東方・ギリシア教父の女性理解 - その受容と展開」公開研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部 善彦
2. 発表標題 西方キリスト教世界における女性霊性の特徴を探る 「女性神秘家」についての試論
3. 学会等名 「東方・ギリシア教父の女性理解 - その受容と展開」公開研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 足立広明
2. 発表標題 Ummidia Quadratillaの仲間たち ローマ世界における女性の公的主体 (public agency) とその変容
3. 学会等名 西洋古典学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroaki ADACHI
2. 発表標題 "From Thecla to Eudocia: St. Cyprianus and a Making of Female Agency in Late Antiquity"
3. 学会等名 Pacific Partnership in Late Antiquity
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 足立広明
2. 発表標題 テクラからエウドキアへー殉教者キュプリアノス伝と古代末期の女性のエージェンシー
3. 学会等名 日本ビザンツ学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 足立広明
2. 発表標題 神と向き合う私 女性使徒テクラとローマ女性の変容
3. 学会等名 「東方・ギリシア教父の女性理解 - その受容と展開」公開研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鶴岡賀雄
2. 発表標題 十字架のヨハネの詩をどう読むか 上田閑照の「言葉」論を参照しつつ
3. 学会等名 東西宗教交流学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂田奈々絵
2. 発表標題 正統性の定義 / 異端へのまなざし レランスのウィンケンティウスを例として
3. 学会等名 西洋中世学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鶴岡賀雄
2. 発表標題 スペイン神秘主義の読まれ方 - 思想形成の資源としての詩と体験
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上寛
2. 発表標題 マルグリット・ポレートと新プラトン主義
3. 学会等名 新プラトン主義協会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 東西キリスト教会のマリア理解とその人間神化/聖化における役割 グレゴリオス・パラマスとトマス・アキナスによるマリア説教の比較分析を通じて
3. 学会等名 東方キリスト教学会第20回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rei Hakamada
2. 発表標題 Deification for all: Rethinking the role of Palamas in the history of Hesychasm
3. 学会等名 Late Antique and Byzantine Studies Seminar, The University of Oxford (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jun YAMADA, Alessandra CERRITO
2. 発表標題 Alcune riflessioni relative allo scavo dell'Oratorio paleocristiano situato sotto l'Ospedale San Giovanni - Addolorata di Roma, alla luce dei recenti rilievi 3D e del restauro virtuale
3. 学会等名 Rileggere il Laterano Antico - Conclusioni. Il rilievo 3D dell' Ospedale S. Giovanni (Rome, WEB Remote) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮本久雄
2. 発表標題 女性・まどい・靈性～ニュッサのグレゴリオスをめぐって
3. 学会等名 科研「東方・ギリシア教父と女性—その歴史の実態と東西キリスト教世界における解釈史—」第三回研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 宮本久雄、山田順、足立広明、山田望、阿部善彦、鶴岡賀雄	4. 発行年 2022年
2. 出版社 教友社	5. 総ページ数 220
3. 書名 古代キリスト教の女性 その霊的伝承と多様性	

1. 著者名 宮本久雄	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 416
3. 書名 言語と証人 根源悪から人間変容の神秘、そしてエヒエロギアの誕生へ	

1. 著者名 久保田浩・鶴岡賀雄・林淳・深澤英隆・細田あや子・渡辺和子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 571
3. 書名 越境する宗教史 下巻 (宗教史学論叢)	

1. 著者名 海老原晴香ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教友社	5. 総ページ数 208
3. 書名 日常の中の聖性	

1. 著者名 坂野正則、坂田奈々絵ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 パリ・ノートル=ダム大聖堂の伝統と再生	

1. 著者名 Jun YAMADA, Alessandra CERRITO	4. 発行年 2020年
2. 出版社 All' insegna del Giglio	5. 総ページ数 175
3. 書名 Proceedings of the Conference - Reassessing the Ancient Lateran. The 3D Survey of the San Giovanni Hospital - Work in Progress	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村上 寛 (Murakami Hiroshi) (10633430)	清泉女子大学・付置研究所・非常勤講師 (32632)	
研究分担者	足立 広明 (Adachi Hiroaki) (30412141)	奈良大学・文学部・教授 (34603)	
研究分担者	袴田 玲 (Hakamada Rei) (30795068)	岡山大学・ヘルスシステム統合科学学域・講師 (15301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂田 奈々絵 (Sakata Nanae) (30795109)	清泉女子大学・文学部・専任講師 (32632)	
研究分担者	阿部 善彦 (Abe Yoshihiko) (40724266)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	鶴岡 賀雄 (Tsuruoka Yoshio) (60180056)	清泉女子大学・文学部・非常勤講師 (32632)	
研究分担者	山田 望 (Yamada Nozomu) (70279967)	南山大学・総合政策学部・教授 (33917)	
研究分担者	山田 順 (Yamada Jun) (90352202)	西南学院大学・国際文化学部・准教授 (37105)	
研究分担者	海老原 晴香 (Ebihara Haruka) (20805246)	白百合女子大学・カトリック教育センター・准教授 (32627)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Hesychnasm in Context: Theology and Society in the Fourteenth Century	開催年 2022年～2022年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------